

2018年度第2四半期決算説明会(2018年10月31日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2018年10月31日)時点の情報に基づく内容です

Q. 今年度のフリー・キャッシュ・フロー見通しを500億円から1,000億円に上方修正した要因について教えてください。

A. 当社の場合、フリー・キャッシュ・フローは、2～2.5年後の経営成績を示す先行指標であり、その状況を定期的にフォローしています。第2四半期末時点では、バランスシート上の圧縮などが進み、フリー・キャッシュ・フローが期初計画に対し500億円のプラスとなる一方、下期にこの好転分を打ち消すような要因はないと判断したため、年度の見通しを上方修正したものです。

Q. Trent1000 のエンジン不具合に係る費用として第2四半期に100億円弱の引当を行ったとのことですが、それでもパワードメインの事業利益見通しを据え置いているということは、他の事業の業績が好転しているのでしょうか？

A. Trent1000に係る費用の発生は期初には想定していませんでしたので、これは減益要因となります。一方、火力事業における固定費の削減等、様々な施策を講じており、総じて各SBUの業績に改善が見られます。こうした状況を総合的に勘案すると、パワードメイン全体としてはTrent1000のマイナス影響をカバーできると考えています。

Q. 今後の大型ガスタービンの競争環境をどのように捉えていますか？

A. 引き続き厳しい競争環境下にあります。アジアを中心に大型ガスタービンの需要は一定程度あるものと認識しています。現在、当社では1,650℃クラスのガスタービン開発を進めていますが、この機種を市場投入することができれば、当社の中長期的な競争力の強化、技術優位性の確立に繋がると考えています。

しかしながら、足元の競争環境は依然として厳しいため、生産性の向上、サプライチェーンの見直し、サービス事業の売上増加等を通じて、収益性の維持に努めるとともに、将来を見据えた火力事業の構造転換にも取り組みます。

Q. MRJの開発状況に関するアップデートがあれば教えてください。

A. MRJ開発については、工程や課題がクリアになり、技術的な問題には目処がつかしました。現在、各種改善項目を反映した型式証明取得用の機体を製作しています。

また、型式証明の取得に向けて、関係各所との調整や飛行試験を進めており、概ねスケジュールどおりに進捗しています。

以上